

西濃農林事務所の普及活動状況

平成24年12月27日現在

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 生育遅れ、出荷は減少

低温の影響により出荷量は少なく推移しており、前年対比で大垣地区が3割、安八地区が2割、定植の前進化に努めた不破地区でも5割に留まっている。各地区とも9月20日以降に定植したほ場の出荷が始まっていない状況であり、中晩生品種の出荷は年明け以降となる見込みである。

降雪と低温により、花蕾の退色や病害の発生も懸念されるため、防除や追肥、選別の徹底について指導するとともに、クリスマス需要に向けて出荷量を確保するため、Mサイズ中心の収穫とするよう働きかけることとしている。

売れる農畜産物づくり

■大豆 大豆の収穫状況

大豆の収穫は、12月10日の降雪と断続的な降雨のため、やや作業が遅れており、ほぼ8割まで終了した状況である。管内の生産面積の6割を占める海津市では、昨年より5日早く、10月19日から収穫を開始したこともあり、ほぼ年内に終了できそうだが、地域によっては年明けの刈り取りとなる見込みである。

品質は2等中心で、やや小粒傾向ながら、収量は平年並み～やや多めになると思われ、引き続きJAとの連携のもと、適切な収穫による品質・収量の確保について支援していく。

■小麦 初期生育は遅れ気味

イワイノダイチは11月8日、さとのそらは11月20日までに播種が終了し、ほぼ適期の作業ができたが、農林61号は播種遅れのは場が散見される。

10月中下旬播種のイワイノダイチは順調に生育しているが、10月下旬から続く低温のため、全般に初期生育は遅れ気味で、茎数は少なめとなっている。さらに初期生育が抑制されないよう、排水対策等の適切なほ場管理を支援していく。

■トマト 海津トマト部会5支部のほ場巡回及び研修会の開催

海津トマト部会の5支部で、12月3日、5日、10日、12日、17日に、ほ場巡回及び研修会が開催された。ほ場巡回では、各生産者の生育状況を把握するとともに、技術係会が中心に取り組んでいる各実証区（葉先枯れ対策、灰色かび病予防剤自動ダクト内投入機、白黒マルチ等）についても説明を行った。

研修会では、農業普及課から、栄養診断の取り組みを踏まえた今後の肥培管理について説明した。日頃は、各自の栽培管理しか見ることができない生産者にとって、他生産者の管理状況を実際に見ることができ、活発な意見交換が行われた。



【ほ場巡回・研修会の様子】

■きゅうり 抑制栽培反省会、天敵利用研修会の開催

12月14日に、抑制栽培反省会が開催され、農業普及課から、きゅうり黄化えそ病に関わる調査結果と対策について説明するとともに、GAPチェックシートによる自己審査が行われた。

また、天敵（スワルスキーカブリダニ）利用者9戸による研修会を行い、抑制栽培の結果と今後の課題について検討した。抑制栽培でのミナミキイロアザミウマの発生は、大部分のほ場で、少なく抑えることができた。

■いちご 出荷開始遅れる

11月23日から、昨年より5日遅く、普通ポット苗ほ場の出荷が始まった。頂果房の出荷ピークも遅れ、12月下旬頃と思われる。11月27日～12月18日にかけて、各部会で目揃会が開催され、出荷規格の確認が行われている。

2番果の出蕾は、濃姫は12月上中旬頃が中心で、1～2番間葉数は5～7枚と多めで、若干出荷の中休みが出そうである。美濃娘は3～5枚程度で続く見込みで、とちおとめは未だ出蕾していない株が半分程度と遅れている。厳冬期となり、草勢を維持するため、摘蕾の実施、適切な温度管理や電照時間等を指導している。

■モロヘイヤ 4年連続前年実績上回る！下宮青果部会協議会モロヘイヤ部会反省会開催

12月11日に、モロヘイヤ部会の反省会が開催された。4年連続して前年を上回る出荷実績（数量で前年比108%）となり、市場からも長期安定出荷が期待された。

農業普及課からは、本年の気象経過説明や、次年度に向けた病害虫対策の徹底指導（ハスモンヨトウ対策の性フェロモン剤の活用を含む）を行った。

■かき 剪定講習会の開催

12月20日に、養老町果樹振興会の柿剪定講習会が開催された。今年の生産状況で問題となった、着色の遅れ、果色のムラに対する対策として、間伐による日照条件の改善と着果枝を減らしつつ樹全体に満遍なく配置することを念頭に剪定するよう説明した。

また、着色を早めるための次年度管理として、樹勢に合った施肥量、夏場のかん水の重要性についても説明した。



【剪定講習会】

■フランネルフラワー 冬期出荷で作期拡大

今年は、切り花用フランネルフラワーの生育は良好で、海津市のほ場では既に30株ほど開花し、11月29日、12月6日の2日間で150本ほど出荷した。

通常は4月から5月にかけての出荷であるが、苗や温度等の条件が整えば11～12月の年内出荷も可能であり、今後の作期拡大に向けて支援していく。



【海津市のほ場の様子】

多様な担い手の育成・確保

■大垣養老高校生 管内農業の現地巡回学習会を開催

西濃地域の農業の現状と課題を理解することにより、地域農業への興味・関心を一層高め、農業の担い手育成・確保に資することを目的に、12月6日に管内農業の現地巡回学習会を開催した。

大垣養老高校の生徒27名が参加し、管内6ヶ所の生産現場で、花き、野菜、水田作、酪農経営等の状況を見聞きし、農業の理解を深めることができた。



【花き温室での視察】

県民みんなで育む農業・農村

■農業体験・食育等 アドバイザーが保育園で食育活動

11月27日に、海津市女性農業経営アドバイザー3名が、「食べて・学んで地産地消推進事業」の一環として食育活動を行い、農業普及課から、活動方法について支援した。自らが経営する、いちご・きゅうり・酪農の実情について紹介するとともに、食べ物の大切さなどについて紙芝居を活用し、食育活動を行った。